

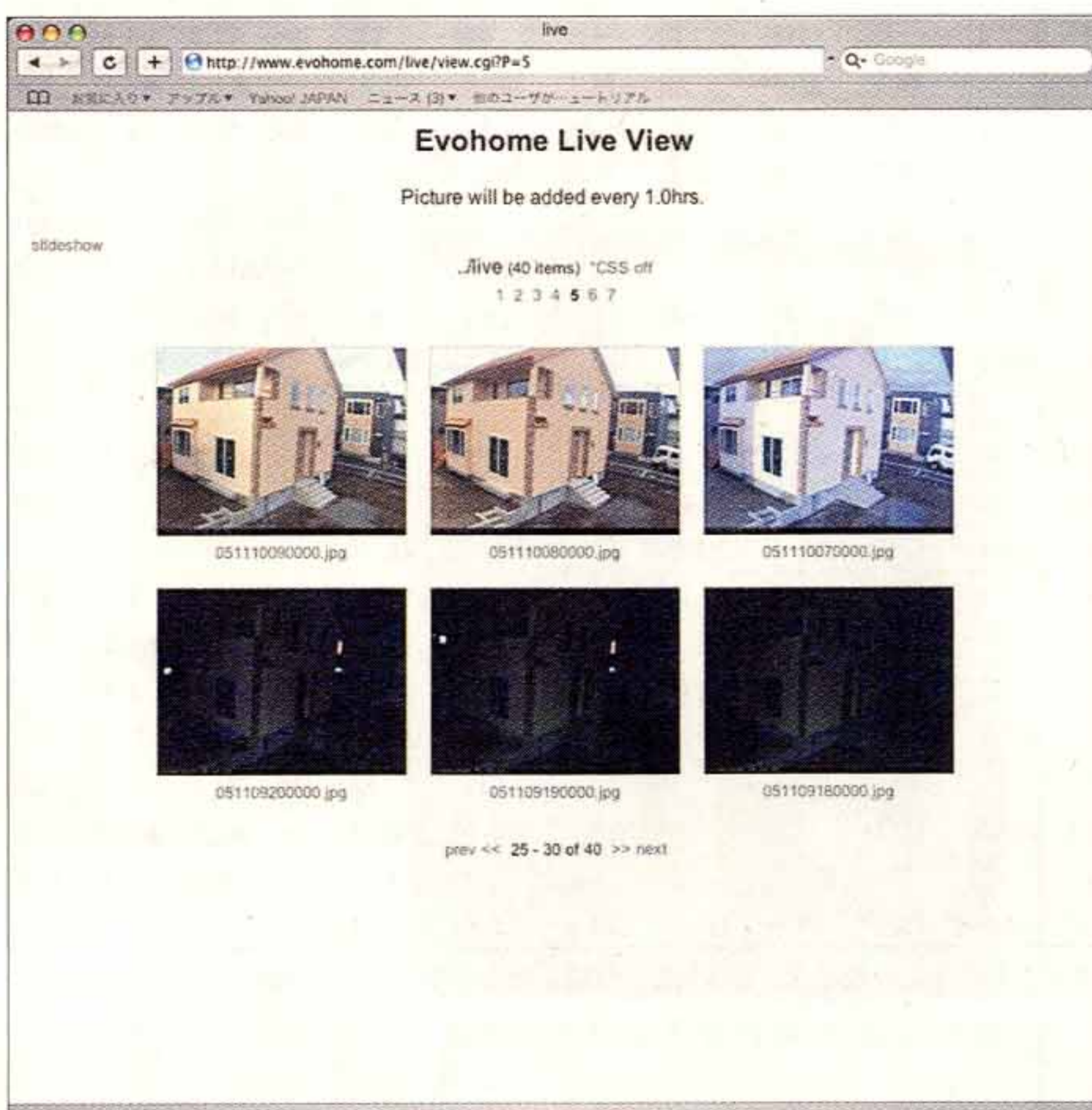
北見・エボホーム

現場にライブカメラ

ホームページ
HP上で誰でも閲覧可能



電気の臨時塔に取り付けたライブカメラ。防犯対策としてセンサー灯と一緒に設置している



送信された写真はこのような自動的にホームページにアップされる



離れた場所からでも現場の状況がわかるため現場管理はかなり楽になったという

エボホームオオヒラ(北見市、大平邦夫社長)では、施工現場に設置したライブカメラ(ウェブカメラ)から定期的に送られてくる写真を自社ホームページに掲載して現場の状況をリアルタイムで公開。「今、現

場を何をしているのかを知りたい」というユーザーの意向に配慮すると同時に、離れた場所からでも現場の状況を見て大工や協力業者に指示を出せるメリットを活かし、現場管理の合理化にも成果を挙げている。

同社ではユーザーの信頼を得るために、ディスクロージャー(情報公開)を積極的に進めようと、2年前から施工現場の写真を毎日撮影してホームページに公開したり、建て主に電子メールで送付したりしていたが、ユーザーが最も知りたいこと、見たいこと、1つは「現場で今、何をしているのか」ではないかと考え、昨年春の現場からライブカメラの採用を開始。写真を建て主だけでなく、他のユーザーにもホームページを通じて公開することにより、現場をガラス張りにして

いるほか、協力業者も含めてくわえタバコ禁止や整理整頓、周辺の道路の清掃などを徹底しているきれいな現場を見てもらうことで、他社と差別化を図ることも狙いとしている。

1時間置きに自動で写真を公開
ライブカメラは、幅75mm×高さ50mm×奥行110mmの大きさで、雪や雨に濡れないよう野外用ハウジングケースに入れて電気の臨時塔の頂上部に設置し、建物と駐車スペースが写るように角度などを調整している。防犯対策として、周囲が暗くなると点灯するセンサーライトも一緒に取り付けられている。

写真は1時間置きにライブカメラに付けたPHSカードからモバイルデータ通信サービスを利用して、ホームページのデ

ータがあるサーバにパケット通信で送信され、自動的にホームページに掲載される仕組みで、写真のデータサイズは1枚当たり640×480ピクセルで、60KBほど。写真を送信する曜日・時間・インターバルなどはパソコンからインターネットを通じて遠隔操作可能だ。

システムトータル費用は、センサーライトも含めて約20万円で、このほかに通信費用としてPHSのパケット通信使用放題プランが6000円/月かかっている。



ハウジングケース内にライブカメラ本体を内蔵している

まだユーザーから特に大きな反響はないというが、受注が決まったユーザーとの商談中には「ライブカメラを付けてるんですね」という話が出るなど、1年前から大平社

るなど、常時現場を公開していることがユーザーの信頼を得るきっかけの1つになっていることを同社では実感しているといい、1年前から大平社

状況が確認できるため、現場に入っている大工や協力業者への指示が電話だけで適確に伝えられるほか、電気工事や内装工事の協力業者が入るタイミングも把握しやすくなるなど、現場管理にも威力を発揮。常に見られていることを意識して大工のマナーも向上し、現場はさらにきれいになる効果もあったそうだ。

同社の大平社長は「ライブカメラによる現場公開は、現場の維持管理徹底が前提になるが、当社のような小さい経営規模の工務店にとつては非常に便利。情報公開の手段として強力なツールになるし、ユーザーが業者選びをする際に、当社にとってプラスとなる判断材料を与えることにもなる」と話している。

ホームページ <http://www.evohome.com/>